



剔紅幽居清趣葵花口盤：明



天藍桃形筆洗：清



黃泥方鐘壺（陳曼生銘）

Chinese Treasures from the CHANG FOUNDATION

開館20周年記念特別展

中国美術の精華

台北・鴻禧美術館所蔵品展

2001年5月29日[火]—7月8日[日]

◎休館日=毎週月曜日(6月4日、11日、18日、25日、7月2日)

◎開館時間=午前9時—午後5時(入館は4時30分まで)

◎入館料=一般300円(240円) / 小中学生100円(80円) ※ ()内は10名以上の団体料金

65歳以上の方及び障害者の方は無料 / 第2・第4土曜日は小中学生無料

◎主催=渋谷区立松濤美術館 / 読売新聞社 / 美術館連絡協議会 ◎協賛=花王株式会社 ◎協力=日本アジア航空

■講演会=6月17日[日]午後2時~「鴻禧美術館の陶磁器」講師:長谷部 楽爾氏(東京国立博物館名誉館員)

渋谷区立松濤美術館

〒150-0046 東京都渋谷区松濤2-14-14 Tel. 03-3465-9421

●渋谷駅下車徒歩15分、神泉駅下車徒歩5分



鍍金弥勒菩薩坐像 (北齊武平六年銘)



三彩鳳冠仕女座俑：唐



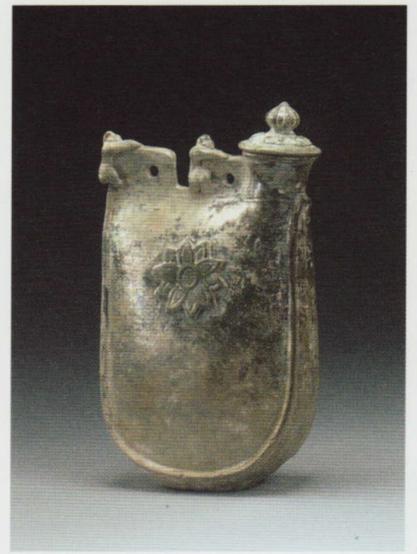
傅抱石 雅楽図



「鎏金観世音菩薩立像」北齊～隋



「螺鈿二十四孝八角双層果盒」明



「緑袖双猴皮囊壺」遼

鴻禧美術館は、1991年に台北市の中心部仁愛路にある鴻禧仁愛大廈に開館した、台湾で最も著名な私立美術館であり、大都会台北のオアシスとして、市民に親しまれています。

その収集品は、台湾の著名な美術収集家張添根氏及び子息の張秀政氏が収集されたものが中心で、中国古代の青銅器・玉器にはじまり、歴代の金銅仏、陶磁器、粘珐、漆器、茶具、明から現代までの絵画など多岐にわたり、総数3万件余に及びます。特に、陶磁器のコレクションは極めて優れ、国際的に高く評価され、欧米の美術館や北京の中国歴史博物館でも大規模な展覧会が開催され、好評を博しています。

本展は、鴻禧美術館の協力ののもとに、漢代から宋代までの陶磁器を中心に、六朝から清朝までの金銅仏、明・清の文人たちに愛好された宜興の茶具や端硯・田黄（印材）などの文房具、そして精美なことで知られる明・清の琺瑯や漆器、鼻煙壺などの工芸品、日本とも所縁のある呉昌碩、張大千、傅抱石の作品を含む中国近現代絵画など180点余の優品を選び、中国芸術の精華、その多彩な美の世界を紹介するものです。

●講演会

6月17日〔日〕午後2時～「鴻禧美術館の陶磁器」
講師：長谷部 楽爾氏（東京国立博物館名誉館員）

●ギャラリー・トーク

6月24日〔日〕午後2時～ 当館学芸員

●美術映画会

6月3日〔日〕午後2時
「故宮博物院の名蹟」漢詩紀行：詩聖杜甫・江湖漂泊」
7月1日〔日〕午後2時
「漢詩紀行：蘇東坡と王安石／陶淵明と謝靈運」

●美術相談

6月10日〔日〕午後2時～4時
廣畑正剛（洋画） 山崎香文子（版画）
7月8日〔日〕午後2時～4時
佐藤善勇（洋画） 佐久間公憲（洋画）



「紫砂馬上封侯樹段壺」清



「書齋寒香」 吳昌碩筆



「文房具各種」



なにしろ、3時間の間柄。



*3時間は成田発。大阪・名古屋は2時間半、
沖縄なら1時間半！うれしいことにもっと近い！